

飲んでみたかったお酒に「SALE」の値札が付いていれば迷わず買う。ライブや観劇も、今この時しか味わえない興奮と感動があるのだから、存分に。だって人間、背伸びをしてみたところで、身の丈に合わない暮らしは続けられない。お金がないなら身の丈に合わせて生きていくしかないんだし、生きていけばいいんだし。

五十代半ばを過ぎるまで、そんな暮らしをしてきました。家計簿をつけてみたことも何度かありましたが、長続きしませんでした。どうにかこうにか、暮らしてこられたので。

「阿部先生のところ相談に行きたい」。妻に言われたのは、昨年秋でした。ちょうどそのころ、生命保険の更新時期が迫っていました。この年齢で同じ保障内容を継続するなら、保険料が跳ね上がることが判明しました。「定年退職」「年金生活」という言葉が頭をよぎります。会社員としてのゴールが見えてきているのに、娘の学費もまだまだかかる。プロに相談してみるのもいいかも。そう思ったのは、会社の先輩がファイナンシャルプランナーに指南を受けていると聞いたことも影響していたのかもしれない。私よりも収入が多い先輩ですら、そうしているのかと。

阿部先生を初めて訪ねた日。家計の最大の問題点を聞かれたら、お酒に使いすぎていることと答えようか、いやいや、まずは家計を把握していないことと答えるべきかと、あれこれ考えていました。ところが、です。最初に、そして一貫して尋ねられたのは、これからどんな人生を送りたいか、ということでした。

Let it be。ケセラセラ。いや、違う。妻と娘にお金を遺せるとは思っていないけれど、この人と一緒に楽しかった、この人がパパで良かったとは思われない。しかも、自分が楽しければもっといいな。いや、順番が逆か。優先すべきは、まずは自分かな。そんな想いを、阿部先生がひとつひとつ、ゆっくりと引